



南の光明

The Catholic Diocese of Naha Newsletter

今年の教区の目標
われら皆 和解の器
平和の担い手

〒902-0067 那覇市安里3-7-2
カトリック那覇教区本部
TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
発行人 W.F.バートン司教 1部40円
<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2023年11月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第780号 (11月号)

存在が脅かされるとき

世界があちこちで紛争が起
き、戦争が地球とそこに在る
すべてのものに暗い影を落と
しています。誰もが平和を望
み、誰しもが戦争を忌み嫌う
のに、なぜこんなにも愚かな
結果を招くのでしょうか？ 平
和って何だろう。平和って幻
想？ 流転し必ず失われるべ
き幻影？ 武力均衡によつて
のみ生じる儚い状態？ そんな
風に平和を考えると、永続
的な安心や安全を得ることは
不可能と思え、絶望してしま
います。

しかし、主イエスは「わ
たしは、平和をあなたがた
に残し、わたしの平和を与
える。わたしはこれを、世
が与えるように与えるので
はない。心を騒がせるな。
おびえるな」(ヨハネ十四・
27)と約束し、自ら十字架を
担って死に立ち向かいました。
十字架上の死を回避す



カトリック那覇教区
ウエイン・F・バートン司教

「狼は子羊と共に宿り、豹
は子ヤギと共に伏す。子牛
は若獅子と共に育ち、小さ
い子供がそれらを導く。牛
も熊も共に草をはみ、その



与えられています。人のみ
ならず、動植物をはじめす
べての自然界の存続に必要
なものが整えられているは
ずです。

一人も除外され
ることなく満た
された状態なら、
どんなに違いが
あったとしても
敵対することな
く共に安らかに
共存できるはず
です。この理想
像、この神の与え
る平和の姿から
地上の平和の実
現を図りましょ
う。すべての存在
を満たすに足る
十分な資源が

そのような世界では、も
はや武力は要らず、武装は意
味をなさない。あらゆる無
駄がそぎ落とされ、必ずす
べての存在が満たされます。

主イエスが約束された平和
が実現するでしょう。

ることなく、その最も不条
理な死をもって永遠のいの
ちへと過ぎ越していったの
です。こうして勝ち得た永
遠のいのちへの道は、命の
源である父なる神との一致
への道、すべてが満たされ、
誰も他者から奪うことも奪
われることもない完全なる
平和な状態に至る道なのだ
と思います。

子らは共に伏し、獅子も牛
もひとしく干し草を食らう。
乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ、
幼子は蝮の巣に手を入れる。
わたしの聖なる山におい
ては何ものも害を加えず、
滅ぼすこともない。水が海
を覆っているように大地は
主を知る知識で満たされる」
(イザヤ十一・6〜9)。

なぜならここは神の被造界
だからです。しかし、それを
争いと奪取、略奪と搾取、不
平等と貧困の世界にしたのは
誰でしょう。存在が脅かされ
るとき抵抗が生じます。
生存が脅かされるとき戦
いが生じます。平等な配分が
ないとき不平不満が募りま
す。生存に必要なものが失わ
れるとき強奪が起こります。
神のもとでの平等、正義、
分配を意識しましょう。わ
たしたちの間にはびこる無
意識の差別、見えざる収奪、
社会構造上の不平等を神の
視点から見直しましょう。
人間の論理上の正義や権利
を最優先とせず、神の与え
た存在を尊重し、すべての
ものを慈しむことを最優先
としましょう。弱き者の立
場に立ち、小さき存在の必
要に応え、すべての存在の
声なき声を聴き、与えられ
たすべてを分かち合うなら、
主イエスが約束された平和
が実現するでしょう。



Jesus the King of our lives

**By: Fr Denis Fernandes, OFM Cap.
Parish priest- Maehara Catholic Church**

The month of November, liturgically, is very significant. On November 1, we celebrate the feast of All Saints, November 2, is All Souls day and on this day we commemorate our dear departed. At the end of November we conclude the liturgical year with the feast of Christ the King. Maehara parish is dedicated to Christ the King, so as a parish community we have an added reason to rejoice, for we celebrate our patron's day by welcoming our dear bishop. This article is an opportunity to reflect on how Jesus is the king and what he should be for us as Christians.

The feast of Christ the king was instituted by pope Pius XI, in the year 1925. When we see world history in the 1920's there were many rulers in the world, who claimed themselves as supreme. These rulers transcended all moral norms, and demanded total obedience from their citizens. It was against this background of totalitarianism that pope Pius XI picked out from the mystery of Jesus the elements of his kingship to protest against the thinking of world leaders.

Worldly king inherits the kingship from his ancestors, he lives in a palace, guards protect him, servants serve him and he has supreme power and authority in his kingdom. In the life of Jesus there is nothing to show that he was a king in a worldly sense. He was born as a poor carpenter's son, he was laid in a manger which became his cradle. During his public ministry he moved from place to place serving others and all people had access to him. Jesus himself claims that his kingdom is not of this world.

All the messianic prophecies in the Old Testament present Jesus as king. At the Annunciation the angel tells Mary, "David's throne will be given to him, and his kingdom will have no end". When he was born, the Magi came to king Herod and asked, "Where is the one who has been born as king of the Jews? The Mission of Jesus was to establish the kingdom of God here on earth. When he began his public ministry he proclaimed, "The kingdom of God is at hand, repent and believe the Gospel". All his teachings, miracles point to this kingdom. When he multiplied bread and fed people, they wanted to make him king, but he escaped from their midst.

Jesus accepted only once the honor of a king when he entered Jerusalem for the last time to complete his mission. When he was made to stand before Pilate, the judge, Jesus acknowledged that he is king, but his kingdom does not belong to this world. His fight was against evil powers namely, sin and death and Jesus by his death on the cross has won over all these enemies. St Paul stated the reason why he is king, "He is the image of the invisible God, the firstborn over all creation, for by him all things were created, things in heaven and on earth, visible or invisible, whether thrones or powers, or rulers or authorities, all things were created by him and for him. He is the firstborn from among the dead, so that in everything he might have the supremacy (cf Col 1:15, 18). While suffering on the cross, Jesus promised to the repentant criminal "today you will be with me in paradise". Thus he has opened the gates of his heavenly kingdom for all who believe in him. His resurrection from death proves that he is the victorious king.

Through our faith we have become the citizens of his kingdom. The external sign of belonging to his kingdom is our baptism. When we accept Jesus as our Savior, we honor him as our king. The cross is his throne, and the Sermon on the Mount is his rule of law. Our journey towards this kingdom of heaven has begun with our Christian way of life. We need to give Jesus control over our lives. Let our hearts become his throne, and may he guide our path, and lead us to eternal happiness with him forever.



シノドスについての考察

ヨアキム・ホアイ神父

宮古島平良教会 主任司祭



していました。いくつかのトピックは私達の日常生活に非常に関連しており、それを理解し受け入れるために、私達は互いに祈りながらそれらの課題について深く熟考することが必要なのです。この機会にこのシノドスについて私はシンプルに考察したいと思いました。

那覇教区の宣教司祭として、シノドスの決意をもって私は、人々の傷ついた心とか日々の問題などに耳を傾け、連帯を分かち合いたいと思っています。できるだけ困っている人たちと一つになり、一緒に霊的生活を過ごしていきたいのです。私は彼らの負担を軽くし、彼らがイ

の村に向かいましたが、その人々に歓迎されませんでした。弟子達は怒ってイエスに、その村の人々を滅ぼすために天から火を送ってくれるように頼みました。しかしイエスは振り返って彼らを叱責されました。やはり、弟子達はまだイエスの使命を理解していませんでした。(ルカ九・51-56)。

弟子たちは拒絶されるのを恐れているので怒りましたが、考えてみると、私たちも弟子達と同じであることがわかります。私達は自分の考えが他人に受け入れられないとき、恐れます。しかし、イエスは私たちを導くために聖霊を送ってくださいとすでに約束してくださっているのです、恐れることはありません。受難を受ける前夜、イエスは弟子たちにこう言われました。「言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今あなたがたには理解できない。しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。」(ヨハネ十六・12-13)。

て、イエスは彼らを愛し、悔い改める機会を与えてくださいました。同じように、イエスは私たちの罪を自ら背負って十字架にかかるために来られました。私たちがこの救いの業を得られるために、罪深い傾向や行為から離れて悔い改めの恵みを願うことが必要だと考えます。

イエスは「兄弟を自分のように愛し合いなさい」とか「互いに愛し合いなさい」などとはつきりおっしゃったのです。私達はこの教えをしっかり守ることができればと思っています。その掟を実現することができるとは、確かに、このシノドスの決議に答えて、私達が謙虚に弱く不幸な兄弟たち、困っている人々に手を差し伸べ、人生の旅路で一歩に歩むこと。そして、勇気をもって立ち上がって病人の訪問とか、悩んでいる人々とか、ほかの宗教会の人々との出会いとか、彼らのために祈ることなのです。そうすると私達は福音とイエスの愛をもって人々に紹介できると思います。

今年の教会生活においては、いうまでもなくシノドスが一番大切な出来事でしょう。十月にバチカンでシノドスが開催されていました。私はシノドスに関してのミーティングの報告を読んで、今日の教会の旅路に多くの人々が傷ついていることに気づきました。多くの人が不安とかストレスとか痛みなどで、悲しんで過ごしていることがわかっています。しかし、教会のような痛みや悲しみに打ちひしがれている中でも、私はイエスと教会との喜びと希望を見出しています。

シノドスでは多くの話題や意見を網羅

エスの希望、愛、平和を体験できればと思っています。これを最も効果的に行うには、イエスご自身を見、イエスが痛みや混乱にどのように対応されたかを知る必要があるでしょう。

イエスがこの世に来たのは、世界を滅ぼすためではなく、人々に危害を加えるためでもなく、すべてを愛するためであったことは明らかです。ルカによる福音書には、山の頂でイエスの輝かしい変容を見た後、弟子たちが降りてエルサレムに向かって旅をしたことが記されています。旅路の途中で、彼らはサマリヤ人

さらに、イエスは苦しんでいる人々を抱きしめました。イエスは彼らに新しい生き方を教え、自分に従うように招かれました。弟子たちは、キリストの新しい生き方を学ぶために、古い生き方を捨てて悔い改めていました。これは困難な旅で時間がかかりましたが、イエスが弟子たち一人一人と寄り添って歩んでいることは確かです。罪がイエスを私たちから遠ざける原因にはなりません。例えば、イエスを否認したペトロ、姦通の現場で捕らえられた姦通女、徴税人たちに対し

私は教区レベル、各小教区レベル、そして自分自身のレベルなど、どのレベルでも、これからシノドスの決議を実現するために計画を作ることが必要だと考えています。これらは教会の広告で一ヶ月または一年間だけの活動はありませんので、私達は精神生活と霊的生活の生き方に励みましよう。聖家族の保護と取り次ぎによって私達一人一人は神の恵みを受け、シノドスについての自分の計画を実行することができましようにお祈り致します。

十月、名護教会では、「聖母マリアへの霊的花束をささげる」として、信者個々の祈りをカードに記入しています。私個人もその一か月ほど前から、毎朝静かな空気の中で、祈りをささげていました。自分の祈りの記録として目に見える形で表せたらと思い、小さなカレンダーにかわいらしい花柄のシールを貼っています。日々の祈りをするとその小さなカレンダーに多くの花シールが咲き、

嬉しくなり、また明日も花を咲かせたいという気持ちになります。

毎日の忙しさの中にあつて、なかなか一人で静かに祈る時間をとることができないで

いたので、このように朝の時間を祈りの時間として続けることができることも素晴らしいことだと思います。

祈りは、神様とのシンプルなコミュニケーションで、祈りをささげると、私は心に平安を感じます。それは、神様が喜んでおられる証なのかもしれません。

「絶えず祈りなさい。どんなこ

とにも感謝しなさい」(テサロ二ケ五・17、18)と記されている通り、祈ることで、主がその祈りに応え、与えられることを知っています。しかし、祈ったことがすべて与えられるわけではないことも知っています。また、祈りは「主よこれを与えてください。そしてこれも与えてください」と欲しいものリストになつてはいけません。私は、「物事がうまくいかないときで

朝起きると右耳の聴力がなく、頭の中で壊れた機械音がずっと鳴り響いている中で人の話す声や周囲の音を聴きとらなければならず、不快な思いと不安を抱えた毎日を送っていました。

人は、苦しいときの神頼みで祈りますが、私も必死にこの苦痛から逃れることができるよう祈っていました。そして、その時「思い通りにならないことが、その人の人生を作っていくこと



も感謝すべきものがあることを心にとめることができるようになってください」と毎日祈っています。

数年前、ある宗教家の方のお話を聴く機会があり、心に残った言葉がありました。「思い通りにならないことが、その人の人生を作っていくことがある」という言葉です。

私は、その頃、突発性難聴になり、苦しみの中にいました。

祈りには、私たちに平安の心をもたらす力があると信じています。私たちは、事が起こると自分の力でどうにかしようと動くことが多々あります。最近読んだ書の中に、「人が働くとき人が働くだけだが、人が祈ると神が働く」ということが記されていました。祈りによって神様の力が働いてくださることも私の体験からあかしすることができ

「どんなことでも思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神にうち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を越える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう」(フィリピ四・6、9)。

この言葉の中で神様は、私たちに約束されています。祈りによつて求めなさいと。また、「義人の祈りは大いに力があり効果があるもの」(ヤコブ五・16)と記されているように、信仰をもつて主に祈るなら、必ずや祈りに応えることを信じています。

これからも毎朝祈りをささげ、神様に頼り委ね、そして神様の声を待ち、生活していきたいと思います。

11月 死者の月

教会では、11月2日が「死者の日」とされていますが、この日だけでなく11月全体を死者の月としています。墓参り、亡くなった家族の方がたや司祭、修道会員、友人を思い起こし、つながり確かめ、祈りを捧げています。私たちが信仰を宣言するときに唱える「聖徒の交わり」とは、この世の私たちと天国の聖人と死者の魂とが、神の生命と愛によって結ばれており、互いに助け合うということです。教会はこの交わりをよく認識し、キリスト教の初期から死者に対して深い敬愛の念を持ち続けてきました。そのために特にミサの中で彼らを記念し、その他の機会にも死者のために祈りを捧げてきたのです。亡くなった人や死を思うとき、それは同時に生、いのち、生き方を思い考える時でもあります。愛する故人を思い祈ると共に、今の自分のいのち、生き方を見つめ、問い直し、祈りのうちに歩んで参りましょう。

2023年10月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2023年10月3日(火) 10:00～12:00

会議の前に、ポスコ神父の司式で聖体賛美式(ベネディクション)が行われた。

1. 報告及び連絡事項：司会はロドニー神父が担当。

- ・会議の始めに、「ケアの文化をともにはぐくむ祈り」を全員で唱えて開会の祈りとした。
- ・前回(9月会議)の報告を新田が行い、承認された。
- ・津波古事務局長から教区内のほぼすべての関連施設が加入しているカリス火災保険について補足説明が行われた。この保険は「企業財産包括保険」と称され、台風被害にも適応される。また、事業体毎に免責金額が設定されており、事業体全体での合計被害額が免責額を上回った場合にはどのような小さな被害にも適用される可能性がある。したがって自己判断せずに、被害状況の写真と被害額の見積りを取って、事務局に報告するよう要請があった。
- ・司教、司祭の休暇と研修による不在が報告された。
ウェイン司教、10/9～10、大阪高松大司教区設立及び着座式ミサに参列。ウェイン司教、クレーバー神父、津波古事務局長、長崎教会管区代表者会議出席のため10/18～10/19、鹿児島へ。
サニー神父、10/23～10/26、J-CARM全国会議のため東京へ。
ピーター神父、11/14～12/14、休暇。
- ・教区の新しい役割分担についてウェイン司教から報告と確認が行われた。カトリック小学校での職務に就いたナビーン神父に代って、青少年の担当にブイ神父を任命し、合わせてサマーキャンプの責任および黙想の家の管理責任も兼任する。これに伴い、これまでブイ神父が担当してきた典礼担当者には、ポスコ神父を任命した。その他の責任担当は継続する。
- ・世界代表司教会議、シノドスの第16回通常総会「討議要綱」-第1会期(2023年10月)「ともに歩む教会のために-交わり、参加、そして宣教」について、ウェイン司教から説明が行われた。日本からは菊地大司教他3人の代表者がシノドスの会議に参加している。テーマに基づいた討議内容が日本語でも読めるようになっているので参考にして欲しい。役割は違っていても、共に歩む教会として、新しい取り組みが随所に織り込まれている。傾聴の心をもって様々な意見に耳を傾けながら歩みを進めて欲しい。シノドスで討議され、私たちに求められている時のしるしを正しく認識して、小教区や家庭にあってもできる取り組みを進めるよう要請が行われた。
- ・その他
- ・普天間のナビーン神父から、11月5日に行われる小教区のバザーについて案内があった。
- ・読谷教会のリカルド神父から、聖ロレンゾ・ルイス祭の報告が行われ、大勢の参加と協力に謝意が述べられた。
- ・開南教会の古川神父より、ワールド・ユース・デーに参加した開南教会の中村リンさんの報告と感想が「福音宣教」誌に掲載されたことが報告され、合わせて有馬神父も施設で元気に過ごされていることが報告された。
- ・10/4アジジの聖フランシスコの祝日に向けて、フランシスカンが伝統的にしている行事への案内が行われた。祝日前の3日の午後6時半から与那原教会において、カプチン会、コンベンツアル会、与那原のシスター達と合同で行われる。

2. 審議事項

- ・教区の召命への取り組みについて、担当のマイケル神父から説明が行われた。祈りのカードとポスターを作成して準備してあるので、各小教区に持ち帰って活用されるよう要請が行われた。
- ・拡大司祭・助祭会議について、司教から注意喚起が行われた。拡大会議への出席は、正式メンバーの職務の一部である。従って、欠席する場合は必ず司教の許可を得る必要がある。また、この責務を果たし易くするために毎月第一火曜日に定例化しており、この優先順位を誤らぬよう要請がなされた。次回11月会議は、11/7～8日の日程で、石垣教会で行う予定であるので、ホテルや食事等の予約のため、出欠確認がその場でなされ、変更が生じた場合は、速やかに届け出るよう指示された。
- ・10月の司教予定についてマーシーさんから報告が行われた。10/21、みつば保育園研修会講話。10/22、安里教会で行われる平和委員会の集いで講話。10/29、与那原でシスター達への霊的講話。
- ・典礼について、ウェイン司教から解説が行われた。数ヶ所の教会で「教会の祈り」と「ミサ」を日常的に合わせて行っているのが見受けられるが、本来「ミサ」と「教会の祈り」は、それぞれ独自の意義と目的で行われる典礼であるので、特別な場合を除き、分けて行うことになっている。主任司祭の判断を尊重したいと思うが、ミサの開始時刻があいまいになって参加者が困らないよう配慮して欲しい。また、洗礼の秘跡執行についても確認がなされた。幼児洗礼は時節にとらわれずに執行してもよいが、典礼規則上の大人の洗礼は、出来るだけ復活徹夜祭において四旬節の洗礼志願者のための典礼を経て行われるよう注意がなされた。規則上の緊急の場合とは『臨死』を想定しており、それ以外は、婚姻の秘跡を受けるために洗礼が急がれるケースにおいても、入信後の信仰生活の継続性を重視した知的準備期間と入信の秘跡への典礼的準備期間を大切に、救いの秘儀の頂点である復活祭に合わせて行うよう注意が促された。
- ・次回11月の司祭・助祭拡大会議は11月7日(火)14:00から、海星小学校にて開催する。そして、翌8日の石垣研修ツアーに参加後に散会とする。

2023年10月17日 承認：ウェイン・フランシス・バートン司教 記録：新田 選

カリタス沖縄の活動報告

美しい沖縄の海を綺麗にしよう！



10月7日、カリタス沖縄委員会のメンバーはボランティアの皆さんとビーチクリーンを行いました。これは教皇さまの呼びかけたカリタス「Together We」キャンペーンの一つのプログラムとして、私達がサマーキャンプで毎年、使っているミッションビーチに隣接する砂浜を綺麗にすることにしました。短時間ではありましたが、大量のごみが集まりました。整備されていない砂浜でビーチクリーンができたことはとてもいい経験になりました。ボランティアの皆さん、お疲れ様でした。そしてミッションビーチのスタッフの協力を感謝いたします。また次のビーチクリーン開催の際は多くの方のご参加をお願い致します。みなさんも沖縄の海を守るためにビーチクリーンに挑戦してみたいはいかがでしょうか。

カリタス沖縄担当：マーシー・クリストバル（信徒宣教者）

私は10月7日に恩納村北部のミッションビーチで行われたビーチクリーンに初めて参加しました。集まったメンバーは、沖縄にある各教会の信者さんです。この日は雨が降る予報が出ていましたが、天気に恵まれ、晴れていました。ミッションビーチはプライベートビーチで、とても綺麗なビーチですが、裏側の区域は整備されてなく、今回のビーチクリーンはそこの清掃をしました。そこには、プラスチックのゴミは沢山あり、ペットボトルや瓶、空き缶、お菓子のゴミなどもありました。ですが、私がびっくりしたことは、大きな靴や何が入っているかわからないボトルがあったことです。清掃は、まず30分清掃して10分休憩を挟んでその後10分清掃しました。1時間以上清掃するのかなと思っていましたが、暑さもあり体力が持たなくて計40分でダウンしてしまいました。それでも10袋分ほどのゴミを集めることができました。ビーチクリーンを初めて体験して、海を綺麗にするという事は勿論ですが、ほかの教会の信者の方々と交流するのにとても良い機会だと思いました。

カリタス沖縄ボランティア：照喜名えみり（高校3年生）

那覇教区平和委員会

11月
例会

ヌチ ヌ ミジ

命の水 映し出された沖縄の50年

～日本のもう一つの公害問題、PFAS(ピーファス)～

講師：島袋 夏子（琉球朝日放送） 日時：11月26日（日）14:00～16:00

場所：安里カトリック教会

カトリック那覇教区平和委員会 問い合わせ ☎ 090-1949-6569（稲福）

教区 NEWS 教会

琉歌で敬老の日を祝う

名護教会

敬老の日を祝うために特別に、九月十七日の主日のミサは、三線の伴奏により、琉歌（愛楽園教会天久佐信氏作詞）を「みるく節」の調子にのせた入祭の歌で始めました。せつ々かなので、一節をご紹介します。

神ぬ、お恵みに救わりていたげにみ名ゆ 崇めとて 祝ううりさ（はやし） 神様 ありがとう エス様ありがとう お恵みをありがとう

民謡に慣れない人たちも、他の皆さんについていこうと懸命に歌いましたが、リードしてくれたのは、三線を演奏してくれ



た宮城永有さんと、奥様の美津子さんでした。宮城ご夫妻は、名護教会の最年長者でお二人とも九十歳です。永有さんの力強い演奏と美津子さんの大きな歌声は、まさしく私たちが敬うべきお姿でした。

閉祭の歌は同じく「ハンジヨウ節」の調子で歌いました。ミサ後には敬老を祝う茶話会を開き、若者も多数加わった和やかな交流の場となりました。琉歌によるミサを計画し、導いてくださったマイケル神父様、ありがとうございました。（寺田道明）

ロザリオの月の巡礼

宮古島教会

十月はロザリオの月。宮古島教会はロザリオの巡礼を企画し、十月十五日（日）ミサが終わった後、皆で保良教会に向かいま

した。コロナ禍で長い間訪れる事になかった教会は豊かな自然に恵まれ静かなたたずまいで私たちを迎えてくれました。今回の巡礼の目的は、世界のあちらこちらで憎しみ合いながら戦争が起きている現在、平和を願うことです。聖母マリアに感謝し、平和の取次ぎを願い心をあわせ祈りを唱えた貴重な時間で



した。「マリアさまのこころそれは・・・」を歌いながら。その後、保良教会の信徒の温かいもてなしを受けながら楽しい昼食会を持ち久々に交わることが出来ました。その上、教会の隣家の方が、有り余るほどのさつま芋を下さったので、ひとりびとり袋いっぱいいただき、喜びと感謝のうちにそれぞれの帰路に向かいました。又の機会が訪れる事を願いながら。（伊志嶺通信員）

親睦グラウンドゴルフ大会

コザ教会

十月は「ロザリオの月」。そしてスポーツの秋でもあります。コザ教会では十月十五日、主日のミサに与った後に沖縄市八重島公園に移動してグラウンド

ゴルフ大会を行いました。秋晴れの下、風も涼しく絶好のスポーツ日和、老若男女五十余名が集

合しました。開会式ではシスターマドレーヌの選手宣誓「私たち選手一同はコザ教会の一致団結のためグラウンドゴルフを楽しむプレーする事を誓います」と力強く宣誓をしました。そして参加者全員でラジオ体操をして体をほぐしたのち、ルール説明を聞ききました。実際にグラウンドゴルフをプレーする人数は三十名。一チーム六名で、五チームに分かれてラウンド開始です！

ほとんどの方がグラウンドゴルフは初めてプレーするとのことでしたが、みなさんお上手！珍プレーやホールインワンも飛び出して、あちこちから歓声や笑い声が絶え間なく聞こえてきました。足腰の調子が悪くプレーしていない年配の方や小さいお子さんも、プレーを眺めながらゆんたくしたり、大きな声でお父さんお母さんを応援している様子がかわいかったです。

プレーが終わる頃にはお腹もペコペコ。コザ教会のメンバーが作ってくれたお弁当をみんなが食べながら親睦を深めました。芝生の上で食べるお弁当は、ほんとうに最高でありました。

食事のあとは閉会式。だれが優勝したのかな？お楽しみ表彰式も行いました。チーム賞や個人賞、ホールインワン賞やブービー賞など入賞された方は賞品を手に満面

の笑顔でした。賞品は信者の方からの提供頂いた米や味噌、ティッシュペーパーや洗剤などの日用品。たくさんの方の協力をいただきより感謝いたします。

天気にも恵まれたグラウンドゴルフ大会。最後は主任司祭のピーター神父が、今日はたくさんの方が集まって嬉々しいです。教会の外でも共同体が集まって、行動を共にすることはとても素晴らしい体験で大きな喜びです。また次も楽しい親睦会を計画して楽しみましょうね、とあいさつしました。神様の恵みと感謝のうちにグラウンドゴルフ大会を終えました。（與那嶺浩民）



Book カトリック文化センターから お知らせ

いつも当センターをご利用いただき誠にありがとうございます。
2024年のカレンダー及び手帳が入荷いたしました。
11月12日(日)は出張販売のため、お店の営業は午後3時30分～
5時30分までとなります。ご了承ください。

カトリック文化センター
〒900-0005 那覇市天久1-8-7 電話・FAX098-868-4649



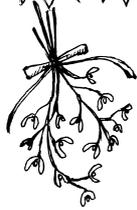
2023年度
那覇教区女性の会
定例研修会



日 時：11月11日(土)
午後2時～5時
場 所：安里教会ホール
講 話：ペトロ神父様
主 催：那覇教区女性の会

与那原教会バザー

2023年11月12日(日)
ミサ 9:00 から
バザー 11:00 から 14:00 まで



普天間教会バザー

2023年11月5日(日)
ミサ 9:00 から
バザー 11:00 から 14:00 まで



NPO 法人ぶどう園の会
訪問看護ステーションクララ



TEL&FAX:098-937-5001
住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

- ・基本受付 月曜日～金曜日(申込、相談など)
- ・営業時間 8:30～17:30
- ・営業日 24時間365日(緊急対応含む)



◆ 普天間教会
イシト□ 名護賢勇様
二〇二三年九月二十五日帰天
享年八十七歳



計 報

葬祭の「やすらい企画」



私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里烏堀町4-57-3
TEL&FAX:098-885-8205
<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>
E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間 受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～
そうてんしゃ

葬 典 社

*創業30数余年・・・。
*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。
「ゆうなの会」会員募集中です。

ひが たかしげ
(実務担当) 比嘉 高茂

24時間 受付

てんごく
☎098-853-1059

